

地理(日本の人口問題)

日本の大都市は、第二次世界大戦後から高度経済成長期にかけて、限られた土地に企業や人口が集中する① 地域となった。その後、大都市はさまざまな問題をかかえていることに加え、地価も高かったため、都心の人口が減少し、郊外の人口が増加した時期もあった(② 現象)。

しかし、1990年代に地価が下がると、再び都心に近い地域の人口が増加した(③ 現象)。

一方、農村では人口の減少と④ 化が進んでいるため、地域社会を維持する機能が弱くなっていて、このような地域は⑤ 地域と呼ばれており、その中でも、65歳以上の人口が過半数をしめる集落を⑥ 集落と呼ぶ。

なので、そのような地域では、大都市には見られない豊かな自然や景観、伝統的な生活や文化、特産品を活用した⑦ が行われている。